

人文社会科学研究科（学際系）教員 2016 年度主要研究業績

（著訳者名あいうえお順）

- 新井高子 「黒田喜夫の『変幻』『季刊びーぐる』、33号、2016年、15-18頁。
- 新井高子 「何よりも、『物語』を！—唐十郎戯曲『ジャガーの眼』を読む『ミで一詩と批評』、135号、2016年、1-5頁。
- 新井高子 「大船渡ノート2—言葉を考える」／「大船渡ノート3—言葉を考える」、『ミで一詩と批評』、137号／138号、2016年／2017年、1-3／1-4頁。
- Hiroimi Itō, Toshiko Hirata & Takako Arai, translated from Japanese by Jeffrey Angles, *Poems of Hiroimi Itō, Toshiko Hirata & Takako Arai*, Vagabond Press, 2016.
- 井口壽乃 「帝都ブダペシュトの世紀末 1896年ハンガリー建国千年記念博覧会にみるナショナル・アイデンティティ」池田祐子編『ウィーン：総合芸術に宿る夢』（西洋近代の都市と芸術 4）』、竹林舎、2016年、426-444頁。
- Hideo ICHIHASHI, "The Reception of E. P. Thompson in Japan: The New Left, *The Making*, and "Moral Economy", *International Review of Social History*, vol. 61, no. 1, 2016, pp. 51-73.
- 井上智勝 「怨霊祭祀譚の均質性と易占書」『日本民俗学』、2017年、1-29頁。
- 이노우에 도모카쓰 「역풍을 극복하는 법 —오사카의 가능성—」『일본비평』, no. 16, 2017, pp. 24-55. [井上智勝 「逆境の越え方—大阪の可能性」『日本批評』、16号、2017年、24-55頁。]
- Isabelle C. Druc and Kinya Inokuchi, 'Producción de la cerámica de Kuntur Wasi: Estudios arqueométricos e interdisciplinarios', *Actas del I Congreso Nacional de Arqueología*, 2016, vol. 3, pp. 155-162.
- Isabelle C. Druc, Kinya Inokuchi and Laure Dussubieux, 'LA-ICP-MS and petrography to assess ceramic interaction networks and production patterns in Kuntur Wasi, Peru', *Journal of Archaeological Science: Reports*, 2017, vol. 12, pp. 151-160.
- 小野寺史郎 「欧州戦争と科学振興のジレンマ—中国における第一次世界大戦報道とその思想的影響」『東洋史研究』、2017年、75巻4号、109-131頁。
- 長堀祐造・小川利康・小野寺史郎・竹元規人編訳『陳独秀文集1 初期思想・文化言語論集』、平凡社、2016年。
- 加地大介 「物的対象の自己統一性と質料形相論」『埼玉大学紀要（教養学部）』、52巻2号、2017年、97-105頁。
- 加地大介 「持続様相としての時相」、河正一・島田雅晴・金井勇人・仁科弘之編『言語をめぐる X章：言語を考える、言語を教える、言語で考える』（埼玉大学教養学部リベラル・アーツ叢書別冊2：仁科弘之教授退職記念論文集）、2017年、507-519頁。
- 河正一, 金井勇人 「過剰敬語の規範性と印象について—大学生への意識調査から—」『埼玉大学日本語教育センター紀要』、11号、2017年、15-27頁。

- 金井勇人「現場指示におけるソ系の指示語について—聞き手用法と中距離用法と」、河正一・島田雅晴・金井勇人・仁科弘之編『言語をめぐる X 章：言語を考える、言語を教える、言語で考える』（埼玉大学教養学部リベラル・アーツ叢書別冊 2：仁科弘之教授退職記念論文集）、2017 年、116-127 頁。
- 川野靖子「格体制の交替の観点からみた『困う』の意味的特徴—壁塗り代換や餅くるみ交替を起こさない理由」、河正一・島田雅晴・金井勇人・仁科弘之編『言語をめぐる X 章：言語を考える、言語を教える、言語で考える』（埼玉大学教養学部リベラル・アーツ叢書別冊 2：仁科弘之教授退職記念論文集）、2017 年、128-141 頁。
- 川野靖子「『グラスから水を空ける』と『グラスを空ける』—離脱型壁塗り代換の分析」『埼玉大学紀要（教養学部）』、52 巻 2 号、2017 年、121-134 頁。
- 権純哲「선비 개념의 생성과 변화」金錫根編『선비정신과 한국사회』아산서원, 2016, pp. 20-71. [権純哲「ソンビ概念の形成と変化」金錫根編『ソンビ精神と韓国社会』アサン書院（韓国ソウル）、2016 年、20-71 頁。]
- 草野大希「オバマ政権の介入政策における『アメリカ例外主義』—不安定な世界におけるアメリカの自画像の再構築」『アメリカ研究』、51 号、2017 年、45-64 頁。
- 小林亜子「フランスの植民地と人口問題（その 91）～（その 100）」『ESTRELA』、265～275 号、2016～2017 年、（各号 4 頁の分割掲載）。
- 近藤久洋「人道主義は普遍的か—新興国と国際人道レジームの未来」『東洋文化』、97 号、2017 年、47-74 頁。
- Sovanroean Samreth, 'A Preliminary Survey on the Poor Households in Angkor Sar Commune, Mesang District, Prey Veng Province, Cambodia: Household Information', *Saitama University Review (Faculty of Liberal Arts)*, vol. 52, no. 1, 2016, pp. 111-120.
- 沢田和彦「外事警察の記録に見る来日ロシア人」、中村喜和・長縄光男・沢田和彦・ポダルコ・ピョートル編著『異郷に生きる VI 来日ロシア人の足跡』、成文社、2016 年、87-97 頁。
- 沢田和彦「早稲田と来日ロシア人」『ロシア文化研究』、24 号、2017 年、33-62 頁。
- 沢田和彦「プロニスワフ・ピウスツキ関係新発見資料について」『埼玉大学紀要（教養学部）』、52 巻 2 号、2017 年、189-200 頁。
- 嶋津拓「海外への『日本語の普及』に対する日本国民の意識—インターネット調査の結果から—」『日本語教育』、163 号、2016 年、17-31 頁。
- 嶋津拓「国際文化交流事業における『言語』と『文化』—海外日本語普及意識調査の結果から考える」『埼玉大学紀要（教養学部）』、52 巻 1 号、2016 年、121-130 頁。
- 嶋津拓「中島敦の『山月記』と釘本久春—はたして釘本は『袁?』だったのか」、河正一・島田雅晴・金井勇人・仁科弘之編『言語をめぐる X 章：言語を考える、言語を教える、言語で考える』（埼玉大学教養学部リベラル・アーツ叢書別冊 2：仁科弘之教授退職記念論文集）、2017 年、416-428 頁。
- 嶋津拓「日本語教育・日本語普及に関する言語政策の立案・実施過程における課題—日本語普及意識調査の結果から考える」『埼玉大学日本語教育センター紀要』、11 号、2017 年、63-77 頁。

- 高橋克也「三項関係の力 一ひとつの構造主義的エッセー」、河正一・島田雅晴・金井勇人・仁科弘之編『言語をめぐる X 章：言語を考える、言語を教える、言語で考える』（埼玉大学教養学部リベラル・アーツ叢書別冊 2：仁科弘之教授退職記念論文集）、2017 年、520-530 頁。
- ジル・カンパニョロ（高橋克也・訳）「人間の物質的生活を考える—若きヘーゲルと近代の生産者たち」『埼玉大学紀要（教養学部）』、52 巻 1 号、131-138 頁。[原著：Gilles Campagnolo, 'Penser la vie materielle des hommes — le jeune Hegel et les producteurs modernes']
- 武井和人「十市遠忠自歌合搜索願」『汲古』、69 号、2016 年、36-41 頁。
- 石澤一志・酒井茂幸・日高愛子・武井和人「室町期歌會資料集成稿—釋文と略解題（三）」『研究と資料』、75 号、2016 年、37-63 頁。
- 武井和人「架藏傳光嚴院筆『式子内親王集』切二點」『研究と資料』、75 号、2016 年、15-19 頁。
- 武井和人「新出資料・架藏『十市遠忠百番自歌合』小攷」、河正一・島田雅晴・金井勇人・仁科弘之編『言語をめぐる X 章：言語を考える、言語を教える、言語で考える』（埼玉大学教養学部リベラル・アーツ叢書別冊 2：仁科弘之教授退職記念論文集）、2017 年、429-441 頁。
- 石澤一志・酒井茂幸・日高愛子・武井和人「室町期歌會資料集成稿—釋文と略解題（四）」『研究と資料』、76 号、2016 年、25-34 頁。
- 武井和人「室町期南都寺院における和書のひろがり」、上杉和彦監修・福島金治編『学藝と文藝』（生活と文化の歴史学シリーズ No. 9）、竹林舎、2016 年、285-309 頁。
- 外山紀久子「ポストモダンダンスと現代美術：《トリオ A》のエニグマをめぐる」、田中正之編『ニューヨーク、錯乱する都市の夢と現実』、竹林舎、2017 年、297-322 頁。
- Kikuko Toyama, 'Old, weak and invalid: dance in inaction', Nanako Nakajima and Gabriele Brandstetter, eds., *The Aging Body in Dance: A Cross-Cultural Perspective*, Routledge, 2017, pp. 122-136.
- 長沢誠「公的高等教育システムの経済的インパクト：ニューヨーク州立大学システムの事例」『埼玉大学紀要（教養学部）』、52 巻 1 号、2016 年、151-184 頁。
- 中村大介・藁科哲男・忽那敬三『明治大学博物館所蔵の碧玉製玉類の産地同定明治大学博物館研究報告』、22 号、2017 年、11-22 頁。
- Nakamura Daisuke, 'Oka Masao's Theories on the Japanese Ethnogenesis with Especial Reference to Migrations from the South', ISHIKAWA Hideshi, Josef KREINER, SASAKI Ken'ichi and YOSHIMURA Takehiko, eds., Proceedings: Symposium "Origins of Oka Masao's Anthropological Scholarship"(Japan Archive : Schriftenreihe der Forschungsstelle Moderns Japan; Vol.12), Bonn: Bier'sche Verlagsanstalt, 2016, pp. 215-239.
- 高木麻里帆・中村大介「カンボジアの伝統的土器製作」『埼玉大学紀要（教養学部）』、52 巻 1 号、2016 年、185-195 頁。
- 中村大介「東端の遊牧民」『季刊考古学』、135 号、2016 年、43-47 頁。
- 中村大介「環東シナ海及び黄海における長距離交易土器」『竊導入前後の土器生産体制の進展と政体の成長に関する日韓の比較考古学』（2013～2015 年度科学研究費補助金 基盤研究(C)研究成果報告

書 (代表:長友朋子) 2017年、25-36頁。

- Susumu Nonaka, 'Japanese Literature in Post-Soviet Countries: An Overview of Some Results of a Collaborative International Project', 野中進・ 杉内裕子・ 沼野恭子編『世界のなかの日本文学—旧ソ連諸国の文学教育から』(埼玉大学教養学部リベラル・アーツ叢書8)、2016年、137-144頁。
- 野中進「言語表現はいかに形を得て、人を慰めるか—アンドレイ・プラトーフの手紙の一節によせて—」河正一・島田雅晴・金井勇人・仁科弘之編『言語をめぐるX章：言語を考える、言語を教える、言語で考える』(埼玉大学教養学部リベラル・アーツ叢書別冊2：仁科弘之教授退職記念論文集)、2017年、455-468頁。
- Susumu Nonaka «В. Гроссман в контексте мировой литературы (К вопросу о переосмыслении русской литературы советского времени)», Андрей Дмитриев и Павел Глушаков (ред.) *Острова любви Борфедда. Сборник к 90-летию Бориса Федоровича Егорова*. СПб.: Росток, 2016. С. 645-652. [野中進「世界文学の文脈で読むV.グロスマン(ソヴィエト期のロシア文学の再評価の問題によせて)」、アンドレイ・ドミートリエフ、パーヴェル・グルシャコフ編『ボルフェドの愛の島：ボリス・フョードロヴィチ・エゴロフ90歳記念論集』サンクトペテルブルグ：ロストク社、2016年、645-652頁。]
- ビュールク・トローヴェ「二代目市川團十郎日記詳解—享保十八年十二月～十九年一月」『埼玉大学紀要(教養学部)』、52巻2号、2016年、59-70頁。
- 平林紀子「2016年米国大統領選挙のマーケティング(2): 予備選挙」『埼玉大学紀要(教養学部)』、52巻1号、2016年、219-253頁。
- 平林紀子「2016年米国大統領選挙のマーケティング(3): 一般選挙の概況」『埼玉大学紀要(教養学部)』、52巻2号、2017年、305-328頁。
- ベルトラム・ラース「日本の近代化における背広の役割」『デザイン史学研究会誌』、14号、2016年、108-113頁。
- 星野徹「知覚経験と知覚対象」『埼玉大学紀要(教養学部)』、52巻1号、2016年、255-269頁。
- 星野徹「『私』の諸相」河正一・島田雅晴・金井勇人・仁科弘之編『言語をめぐるX章：言語を考える、言語を教える、言語で考える』(埼玉大学教養学部リベラル・アーツ叢書別冊2：仁科弘之教授退職記念論文集)、2017年、494-506頁。
- 星野徹「意志と対象」『埼玉大学紀要(教養学部)』、52巻2号、2017年、329-342頁。
- 牧陽一「パスポート奪回後の艾未未(アイ・ウェイウェイ)」ARTiT (on web), 2016年5月11日 (http://www.art-it.asia/u/admin_ed_contri13_j/9RDnoXzKALfEYd2JxswI)
- 牧陽一「艾未未(アイ・ウェイウェイ)の少年時代」ARTiT (on web), 2016年6月29日 (http://www.art-it.asia/u/admin_ed_contri13_j/zShUFqAs2bEP6ZVYn7k8)
- Atsushi Miura, 'Dynamique des systèmes fonciers imbriqués aux Philippines, depuis le 16e siècle', Pablo Luna et Niccolò Mignemi (dir.), *Prédateurs et résistants: appropriation et réappropriation de la terre et des ressources naturelles (16e-20e siècles)*, Paris: Editions Syllepse, 2017, pp. 45-68.
- 三浦敦「市民社会と協同組合：フィリピンとセネガルの農村アソシエーション」信田敏宏ほか編『グローバル支援の人類学：変貌するNGO・市民活動の現場から』、昭和堂、2017年、79-101頁。

- 宮田伊知郎 『『ポスト郊外』世代による現代都市史の困難と可能性—反開発運動と都心回帰の連続をめぐる—考察』『アメリカ史研究』、39号、2016年、3-26頁。
- Alan George Milne, 'Bringing Conversation to the Communication Class', 河正一・島田雅晴・金井勇人・仁科弘之編『言語をめぐる X 章：言語を考える、言語を教える、言語で考える』（埼玉大学教養学部リベラル・アーツ叢書別冊 2：仁科弘之教授退職記念論文集）、2017年、303-317頁。
- Ryota Suzuki, Yoshinori Kobayashi, Yoshinori Kuno, Taichi Yamada, Keiichi Yamazaki, Akiko Yamazaki,, 'Maintaining Formation of Multiple Robotic Wheelchairs for Smooth Communication', *International Journal on Artificial Intelligence Tools*, vol. 25, no. 5, 2016, pp. 1-19.
- H. Fukuda, Y. Kobayashi, Y. Kuno, A. Yamazaki, K. Ikeda, K. Yamazaki, 'Analysis of Multi-Party Human Interaction towards a Robot Mediator', *25th International Symposium on Robot and Human Interactive Communication*, 2016, pp. 17-21.
- 山中信彦 「人はなぜ人の役に立ちたがるのか—新聞記事コーパスに基づく言説の考察」、河正一・島田雅晴・金井勇人・仁科弘之編『言語をめぐる X 章：言語を考える、言語を教える、言語で考える』（埼玉大学教養学部リベラル・アーツ叢書別冊 2：仁科弘之教授退職記念論文集）、2017年、259-270頁。